

社 報



技術的優位を考える

ピンポイント工法

11月20日(月)、清水建設での改善提案大会(インブルー21)において、当社の型枠支保工早期解体工法=ピンポイント工法が優秀改善事例として、とりあげられ、発表を行いました。

高度な技術提案でありましたから、会場の理解度は今ひとつの感がありました。改善提案大会が始まってからの最優秀提案であるとの評価もあり、当社の技術力が認められました。

来年も是非、優秀な改善提案を出したいものです。



成長企業とは、どんな企業を想像できるでしょうか。

コンピューター・金融・自動車・機械情報産業など、一般的に思い当たる産業分野だと思います。

建設産業は成長分野ではありません。産業規模で言うと、毎年産業規模を縮小しつつある、衰退産業に色分けされています。

成長産業分野はいろいろでも、その中でも成長企業と衰退企業があり、いくら建設産業が規模を縮小しつつあると言っても、その中に、成長企業と衰退企業があるのです。

では、成長企業の条件とは何でしょうか。人材・資金・企画など、いろんな面での条件があると思います。

私は、成長企業で一番大事なことは成長したいと言う意欲であると思います。この意欲を、会社を構成する一人一人が持てるかどうかということになります。

それとは別に、成長意欲と言ってもどのような所に、会社の力を注力するかということも大事です。

ひとりひとりの技能・技・知識は、もちろん大切であることは言うまでもありませんが、それを踏まえた上で、技術的に向上することがとても大切

であるはずで。

人と人の競争では、能力・時間が勝ち負けに大きく影響します。

相手が頑張れば、自分もそれ以上に頑張らなければ勝負に勝てません。このことは大変に重要です。

頑張ることは素晴らしいことです。が、人間は一生、ひたすら頑張ることもできません。もちろん相手も同じですが、この理論には、相手が頑張れば、こちらも頑張らなければならないという無限競争理論になってしまいます。

私はこの無限競争にはまらない会社が成長会社であると思うのです。無限競争の畏にはまると、そこから出れなくなってしまいます。

今の建設業界はまさに、この、無限競争理論の中にあり、頑張っても、相手が頑張るから勝てない、そしてそこから談合や価格調整の正当性が発生しています。

いかに無限競争の中に入らないで競争での優位を保つことができるかを考えれば、技術での優位性を得る必要があるかが理解できます。

「お金のある者は知恵のある者に使われ、知恵のある者は夢のある者に使われる。」

夢は技術革新ですね。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

不休災害が2件……、あわや！

11月17日(金)11:00頃

星光学院の現場で、建て掛けたポストが倒れてきて、右手甲を打撲挫創した。
被災者:小野秀明さん 58歳 経験29年
所属:野瀬工事部-石田工務店
被災状況:通院加療2週間(不休)

11月18日(土)14:30頃

ホームタイにズボンが引掛り、自ら手摺をはずした開口部に墜落、打撲した。
被災者:中迫弘文さん 31歳 経験12年
所属:竹島工事部-恭司工務店
被災状況:休業3日(不休)

立掛けは倒れ止め結束を！

開口部手摺は取り外し不可！元請許可が必要！

2006年 安全成績

現場災害 H18.1.1-H18.12.13

休業災害 ----- 1

不休災害 ----- 6

物損災害 ----- 0

その他 ----- 0

合計 ----- 7

交通災害 H18.1.1-H18.12.13

人身災害 ----- 0

物損災害 ----- 0

合計 ----- 0